

英文読解におけるチャンキング指導が日本人初級英語学習者にもたらす認知効果

兵庫県／宝塚市立御殿山中学校 教諭 柳瀬 学

概要

英文読解におけるチャンキング（スラッシュリーディング）の効果は、これまでの研究で処理速度や内容理解の向上が認められている。ただ、内容理解に関しては学習発達段階によって微妙な差が見られる。すなわち上級学習者には効果があるが、初級・中級者においては効果が認められないとする報告がある。その原因として初級学習者はチャンキング行為それ自体に多大の労力を注いでしまい、肝心の読解度や読解速度を下げているという点が指摘されている。

そこで本研究では、英語初級学習者にチャンキングのパターンを事前に明確に教授することにより、英検3・4級レベルの英語単文問題、及び長文問題における内容理解と、読解速度（付随する問題を解く時間を含めたもの）にどのような変化が見られるかを検証した。分析の結果、内容理解の点で有意な伸びが確認されたのに対し、読解速度の点では有意差は認められなかった。

1 はじめに

ここ数年、日本人初級英語学習者の英文速読に対するニーズは年々高まっている。その背景には、各英語試験（高校や大学の入学試験や英検などの資格試験）における長文問題の語彙数の増加や、長文問題の占める配点の高さが関係しており、受験生には制限時間内にながりの単語数の長文を読み、内容を理解した上で設問に適切に答える力、つまり「英文理解力」と「速読力」の2つが要求される。

一般的に英文速読のストラテジーとしては、パラ

グラフィリーディングや Scanning, Skimming (Grellet, 1981) などが知られている。しかし、ある程度の読解能力を有することを前提としたこれらのリーディング方略は、読解を苦手とする英語初級学習者が抱える「1つ1つの英文の読み方（訳し方）自体がわからない」という根本的な問題を解決するものではない。また、英語初級学習者が飛ばし読みをすることに対する警告として、竹内（2003）では「難解な文に出会ったらぶつ切りにしてその構文をしっかりと把握しましょう。（中略）飛ばし読みをしているといつまでも理解力は伸びません」（p.149）という外国語学習成功者からのアドバイスを紹介している。

このように現在のところ、英語初級学習者のためのリーディング方略は、中級・上級英語学習者用のものに比べると十分に開発されているとは言い難い状況である。

そこで本研究では、日本人英語初級学習者に焦点を当て、チャンキングを使った英文読解法を教授することが、英検3級・4級レベルの学習者の英文理解力と読解速度をどのように変化させるのかを検証する。

2 背景

2.1 スラッシュリーディングとチャンキング

英文をスラッシュ（/）で区切って読み進める読解法をスラッシュリーディングという。ただし本研究では英文を区切るマークとして、スラッシュ（/）

だけでなく、括弧（ ）も使用していくため、本研究で用いるリーディング方略を「“チャンキング”を使ったリーディング方略」とし、チャンキングの定義を「英文を適当な意味のかたまりに分けたことによって生じる、1つのまとまった意味単位」(小池, 2003; Miller, 1967) とする。

2.2 チャンキングによるリーディング効果

チャンキングによるリーディング効果としては、文章内容を記憶する認知的負荷の軽減 (Ellis, 2001) や、読解速度の向上 (Newell, 1990; Ohtagaki & Ohmori, 1991; Tan & Nicholson, 1997) が認められている。ただ、内容理解の向上に関しては、指導による効果の有無が一致していない。効果があった例には Tan & Nicholson (1997), Ohtagaki & Ohmori (1991), 駒場他 (1992) の上級学習者があり、一方で効果がなかった例は Fleisher et al. (1978), 駒場他 (1992) の中級・初級学習者がある (土方, 2003)。

このように発達段階によって効果の差が生じる原因として、土方 (2005) は処理と短時間の保持を並列して行うワーキングメモリーを取り上げ、処理に時間がかかれば保持に認知資源を割くことができず、全体的なテキスト理解に至らないためだとしている。

また、田中・木村・北尾 (2006) では、「スラッシュリーディングは、学習者がある一定量の教材を使いこなすことが重要で、その実践にはスラッシュ付けに関して一貫性のある教材を、ある程度蓄積することが必要となる」として、学習効果が現れるまでの条件を挙げている。

2.3 効果的なチャンク単位

チャンクとは元来「1つのまとまった意味単位として一時的に記憶し処理される項目」のことで、人間の短期記憶における情報処理容量を調査した結果考えられたもの (Miller, 1967) である。英語学習では、チャンキングは通訳トレーニングのリスニング力養成プログラムで使用されており、英文読解においても、意味のまとまりごとに情報を整理していくことができるという点で学習効果が期待される。門田 (2003) は、チャンキングによる効果について「Nation (2001) や Ellis (2001) などが指摘するよ

うに、チャンキングの大きな利点は、処理の効率性 (processing efficiency) にある。言語処理過程において、一つ一つの語に注意を向けるのではなく一つの単位 (unit) として処理されることによって、それを認識したり産出したりするのに要する時間を節約することができるのである」(p. 251) としている。

ただ、ここで留意すべきはチャンクの大きさである。田中他 (2006) では、「チャンクは大きすぎると意味の素早い理解が難しくなる一方で、小さすぎると単語・句間のつながりなどの周辺情報が失われ、戻り読みや先読みを誘引することとなる」とし、高梨・卯城 (2000) では「読みの単位が小さいと前後の流れの中で理解することができなくなってしまうため、より大きな意味単位のまとまり (meaning chunk) で理解していく必要がある」と述べている。このように英文をあまりに細かく区切ることは、英語初級学習者にとっては理解を促進しないばかりか、かえって理解の妨げになることもあると指摘されている。

では、これまでの研究で具体的なフレーズの区切り方はどのように提案されているだろうか。表1は英文を区切る個所を示した諸説をまとめたものである。

■ 表1：フレーズに区切る個所

駒場他。(1992)

1. 「前置詞＋名詞」はひとまとまりにする
2. 「to＋動詞＋目的語(など)」はひとまとめにする
3. 接続詞、疑問詞、関係代名詞などの前で切る
4. 長い主語はひとまとめにする
5. 場所や時間などを表す副詞句はひとまとめにする
6. 句読点のあるところでは区切る

(注)『英語教授法辞典』(三省堂)の‘Breath Group’の項目(pp.66-67)を参考にして、上記の6つのルールを定めた。

田中他 (2006)

1. 補文境界にはスラッシュを入れる
2. 文頭副詞句の直後はスラッシュを入れる
3. ある程度長い前置詞句の前にはスラッシュを入れる
4. 長い主語に対する関係節の前ではスラッシュを入れる

高梨・卯城 (2000)

1. 挿入個所の前後
2. 「前置詞＋名詞」の前後
3. 「to＋動詞＋目的語」の前後
4. 接続詞の前
5. 疑問詞の前
6. 関係代名詞の前
7. 長い主語の後
8. 長い目的語の後
9. 場所や時間などを表す副詞句の前後
10. 句読点の前

高山 (2005)

1. 前置詞句 (=副詞や形容詞) の前と後
2. カンマ (,), セミコロン (;), コロン (:), ダッシュ (—) の前
3. that 節, 疑問詞節, whether 節の前
4. 関係代名詞 [関係副詞] の前
5. to 不定詞の前
6. 接続詞 (because, if など) の前
7. 目的語や補語が長い場合にはそれらの前
8. 主語が動名詞句や疑問詞句のように長い場合はその後

このように、学習者レベルや読解の目的に合わせて区切り方は微妙に変わってくる。高梨・卯城 (2000) も「必ずしも機械的に区切ることができるものばかりではないので、文脈に応じて柔軟に対処する必要がある」としている。また土方 (2003) では「チャンキングを用いた指導が効果的になるためには、前もって読み手自身がどのようなチャンキング単位で処理しているのかを知ることが重要である。しかし、目に直接見えない心的過程を測定することは難しく、確立された測定方法もない」とある。

本研究では、柳瀬 (2005) によるチャンキング法を採用した。これは日本人英語初級英語学習者にとって最も効果的なチャンキング単位^(註1)は何かという問いに対し、中学現場での15年以上にわたる教育実践と、2年間にわたる実験調査に基づいて作成されたものである。

この実験調査の内容は、2000～2001年度にかけて中学3年生の生徒192名を対象に「生徒たちがスラッシュを入れるべき個所を間違えるのは、どういったパターンの英文 (構文) のときか」を統計処

理したものである。調査方法としては、当時学校の授業で使用していなかった他社の教科書 (NEW CROWN) の中から48の構文を選び、英文読解をする上で有効だと思われるスラッシュ (/) を英文中に記入させて、その整合性から考えて (SIM 方式・RIC 方式などを参考)、明らかに誤りだと思われる区切り方をした英文を10種類にパターン分けした。

この10種類の中から、今回の研究では3種類のチャンキング法に絞って、それぞれがどの程度のリーディング効果をもたらすのかを検証した。

具体的には次の3つのチャンキング法を指している：

- ① 時を表す副詞句の後にスラッシュ (/) を入れる
- ② 場所を表す副詞句の後にスラッシュ (/) を入れる
- ③ and の前後を括弧でくくり、 () and () の形にする

なお、この3種類を選んだ理由は、これまでの研究 (柳瀬, 2001, 2005) から、これらが初級学習者にとって最も理解しやすく、かつリーディングストラテジーとして浸透しやすい区切り方だと判断したためである。

2.4 読解速度

英文の読みの速さを示すには wpm という単位が用いられる。これは1分間に何語の単語を読むことができるのか (words per minutes) を表すもので、岩城 (1980) は70%程度の理解度を読みの目安として考えると、中学生で100wpm、高校生で150wpm、大学生で200wpmあたりが目標だとしている。

速読にかかわる変数として、松村 (1984) は英文速読を阻害する要因を9個挙げている。すなわち、① 英文読解力の欠如、② 音読、③ 逐語読み、④ 訳読、⑤ 返り読み (regressive eye movements)、⑥ 語彙力の不足、⑦ 綴り字の音声化が十分にできていないこと、⑧ 読みの大きさの単位、⑨ 固視時間の長さや回数である。このうち本研究では、⑧の「読みの大きさの単位」に注目する。

2.5 英文理解と速度の関係

英文読解力と読解速度の関係については、Smith (1982) が「少なくとも200wpm程度の速度が読解理解や集中力を保つために必要である」としてい

る。適度な読解速度を保つことにより、英文の流れがわかって理解が増すとする考えは、高梨・卯城(2000)が「遅い読解速度と英文読解力の低さという両者の関係には相関が見られるものの、どちらが原因でどちらが結果かははっきりしないので(Nuttall 1996)、速読トレーニングのみならず、総合的な文法読解指導が併せて行われることが望ましい」としている。

3 研究課題

3.1 本研究の目的

本研究のリサーチクエストは以下の3点である。

- ① 3種類のチャンキング法(柳瀬, 2005)を被験者に教授することで、英語初級学習者の英文(英検3級・4級レベル)理解度(注2)にどのような変化が見られるか。
- ② 3種類のチャンキング法を教授することで、英語初級学習者の読解速度にどのような変化が見られるのか。
- ③ チャンキング法による読解速度と理解度の相関関係はあるか(wpmを使って測定する)。

3.2 仮説

本研究における仮説は以下のとおりである。

- (1) 実験群のクラス(チャンキング法を指導しマスターさせたクラス)の方が、統制群のクラス(Pre-testの後、特別なチャンキング指導を行わずにPost-testを行ったクラス)よりも有意に英文理解度を伸ばす。
- (2) 実験群のクラスの方が、統制群のクラスよりも有意に英文読解速度を伸ばす。
- (3) 英文読解理解度と英文読解速度の間には相関関係が見られ、wpmの値が伸びる。

4 研究方法

4.1 被験者

本研究の参加者は中学3年生86名で、内訳は実験群42名、統制群44名である。全員が日本語を母語と

しており、この中からPre-test、Post-testのいずれか一方しか受験しなかった生徒、及び英語圏の国からの帰国子女は学習経験が異なるため、今回の分析からは除いた。その結果、最終的に分析対象となったデータは実験群39名、統制群40名、計79名であった。

4.2 実験手順

実験群・統制群のクラスのいずれもPre-test(資料1参照)を実施し、英文和訳(1 sentence)及び長文読解問題を解いてもらった。テストの手順としては、まず英文速読の重要性を説明した後、Pre-testを配り、10分以内にできるだけ速く10問の問題に答えるよう指示する。さらに読解速度に関するデータを集めるために、すべての英文を読み終わった時間(見直し時間は省く)も記入させた。

その後、実験群のクラスにはチャンキングに関する授業(資料2参照)を行い、統制群のクラスには読解法とは関係しない授業を行った後、両クラス共にPost-test(資料3参照)を行った。なお実験群のクラスでチャンキング法をマスターさせるためのトレーニングを実践問題で行った理由は、被験者が中学3年生ということで、高校入試形式の長文問題を解く際に役立つ、実践的な練習を学習者に行わせたいという現場の実情に即したためである。

また、実験群クラスで行った授業では、英文中にスラッシュ(/)や、括弧()を入れて読むことを奨励し、Post-testを解く際にも問題用紙の英文にスラッシュと括弧を記入させた。

4.3 使用テスト

読解熟達度を測る指標として、単文和訳問題(6問)と長文読解問題(4問)の2種類の問題を出題した。その内訳はスラッシュリーディング(5問)と括弧によるチャンク(5問)をリーディング方略として用いて読む英文にした。英文レベルは英検3級・4級程度とし、実際の英検4級一次試験問題から抜き出した英文も使用した。10問のうちの7問は4者択一の多肢選択式項目で、1つの問題の中には必ず3つの誤った選択肢が与えられたが、その選択肢には未習の語、及び明らかに正解と思えないものは省いた。

なお、Pre-testとPost-testの関連性を持たせるため、2つのテストの問題の種類、形式、及び英文レベルは統一した。

4.4 分析方法

仮説1～3の検証には、クラスと理解度、及びクラスと読解速度を要因とする二要因混合分散分析を行った。

5 結果

5.1 英文理解度に関する結果

表2は、Pre-test, Post-testの2つのテストの理解度を一元配置分散分析にかけた結果である。

なお、実験群・統制群のPre-testのみを比較した分散分析の結果、Pre-testは等質だということが示された ($F(1, 78) = .10, p \geq .10$)。

■ 表2：理解度の一元配置分散分析の結果

理解テスト 10点満点	実験群 (n = 39)		統制群 (n = 40)	
	Mean	SD	Mean	SD
Pre-test	6.38	2.36	6.55	2.13
Post-test	7.69	1.77	7.03	1.70

なお、Pre-test, Post-testの2つのテストの理解度を二要因混合分散分析にかけた結果、クラスとテストの関係に有意な交互作用が認められた ($F(2, 78) = 4.28, p < .05$) ため、交互作用分析が行われた。するとPre-testでは見られなかったクラス間での有意差がPost-testでは現れ ($F(1, 77) = 2.85, p < .10$)、また、統制群におけるPre-testからPost-testへの伸び ($F(1, 39) = 2.79, p = ns$) に対して、実験群では大きな伸び ($F(1, 38) = 21.12, p < .01$) が確認された。

5.1.1 スラッシュを使った読解法による結果

表3は、Pre-test, Post-testの中で、場所や時間などを表す文頭副詞句の後にスラッシュ(/)を使って英文を読むことで、理解度にどのような変化が現れたのかを一元配置分散分析にかけた結果である。

■ 表3：スラッシュを使った読解法による理解度の変化 一元配置分散分析

理解テスト 5点満点	実験群 (n = 39)		統制群 (n = 40)	
	Mean	SD	Mean	SD
Pre-test	3.62	1.00	3.60	1.09
Post-test	4.38	0.77	3.73	1.00

Pre-test, Post-testのいずれのテストでも、スラッシュを使って英文を読む問題は5問出題された。また実験群のPost-testでは、問題に書かれてある英文に実際にスラッシュを記入するよう指導した。

なお、実験群・統制群のPre-testのみを比較した分散分析の結果、Pre-testは等質だということが示された ($F(1, 78) = .00, p = ns$)。

また、Pre-test, Post-testにおけるスラッシュを使った読解法による理解度を二要因混合分散分析にかけた結果、クラスとテストの関係に有意な交互作用が認められた ($F(2, 78) = 4.17, p < .05$) ため、交互作用分析が行われた。するとPre-testでは見られなかったクラス間での有意差がPost-testでは見られ ($F(2, 78) = 7.63, p < .01$)、統制群におけるPre-testからPost-testへの伸びに有意な差がなかった ($F(2, 39) = .44, p = ns$) のに対し、実験群では大きな伸び ($F(2, 38) = 12.63, p < .01$) が確認された。

5.1.2 括弧を使った読解法による結果

表4は、Pre-test, Post-testの2つのテストの中でも、接続詞andの前後を括弧()でくくって英文を読むことによって理解度にどのような変化が現れたのかを一元配置分散分析にかけた結果である。Pre-test, Post-testのいずれのテストでも、括弧を使って英文を読む問題は5問出題された。

■ 表4：接続詞andの前後を括弧でくくったことによる理解度の変化 一元配置分散分析

理解テスト 5点満点	実験群 (n = 39)		統制群 (n = 40)	
	Mean	SD	Mean	SD
Pre-test	2.95	1.36	3.10	1.26
Post-test	3.74	1.26	3.80	1.07

なお、実験群・統制群のPre-testのみを比較した分散分析の結果、Pre-testは等質だということが示された ($F(1, 78) = .25, p = ns$)。

またPre-test, Post-testにおける括弧を使った読解法による理解度を二要因混合分散分析にかけた結果、クラスとテストの関係に有意な交互作用が認められなかった ($F(2, 78) = .03, p = ns$) ため、交互作用分析は行われなかった。

5.2 読解速度に関する結果

表5は、Pre-test, Post-testの2つのテストにおける読解速度（読解に要した時間）を点数化して、その得点の変化を二要因混合分散分析にかけた結果である。点数換算法は以下のとおりである。

1. Pre test, Post-test 共に、すべての問題を解くのに要した時間を解答用紙に記入させる（制限時間は10分間とした）。
2. 10分間から要した時間を引いて（引き算をして）、秒数は10進法に直して点数化する。なお、0～14秒は0点、15～44秒は0.5点、45～59秒は1点で計算する。例えば、所要時間が4分14秒ならば、10分－4分14秒＝5分46秒→5点＋1点＝6点となり、所要時間が6分40秒ならば、10分－6分40秒＝3分20秒→3点＋0.5点＝3.5点となる。

■表5：読解速度の変化 一元配置分散分析

読解時間 10点満点	実験群 (n = 39)		統制群 (n = 40)	
	Mean	SD	Mean	SD
Pre-test	5.50	2.22	5.58	1.02
Post-test	5.92	1.84	5.78	0.97

なお、実験群・統制群のPre-testのみを比較した分散分析の結果、Pre-testは等質だということが示された ($F(1, 78) = .03, p = ns$)。

分散分析の結果、クラスとテストの関係に有意な交互作用が認められなかった ($F(2, 78) = .49, p = ns$) ため、交互作用分析は行われなかった。

5.3 理解度と読解速度の相関に関する結果

学習者の理解度と読解速度の相関を測る指標としてwpmがある。本研究では、山内(1985)、酒井(2001)の理論を採用し、算出方法を以下のとおりとした。

$$\text{wpm} = (\text{本文の総語数} \times 60 (\text{秒}) \times \text{正解数}) \div (\text{読解に要した時間} (\text{秒}) \times \text{設問数})$$

今回の実験群、統制群、それぞれのPre-test, Post-testにおけるwpmの値を記したのが表6である。

ただし、ここで注意が必要なのは、上記の算出方法を使ったこれまでの研究がすべて英語長文問題のみをデータの対象としているのに対して、本研究では、より実際の定期試験での形式に近づけるため、

4.3で表したように、英文和訳の記述式問題も織り交ぜている点である。そのため、どうしてもwpmの値は他の研究結果（山内, 1985; 佐藤, 2006）と比べると低くなっているが、ここでは学習者の理解度と読解速度の相関を測る指標として、数値の変化を検証する。

■表6：wpm伸張度と伸び率 一元配置分散分析

wpm	実験群 (n = 39)	統制群 (n = 40)
Pre-test	27.50	28.24
Post-test	42.39	36.00
伸び率	154%	127%

表が示すとおり、統制群に比べ実験群のwpmの値の伸びが確認された。

6 考察

6.1 英文理解度に関する考察

前節の資料と結果に基づいて、3つの研究課題への解答としたい。

リサーチクエスチョン①については、統制群のクラスに対して実験群のクラスが有意に理解度を増したという結果になっている。このことは、このトレーニングが日本人英語初級学習者の読解能力を向上させることに効果がある可能性を示している。ただし、表4が示すとおり、接続詞andの前後を括弧でくくることによるチャンキング効果は、有意な差が現れなかった。このことは場所や時間などを表す文頭副詞句の後にスラッシュを使って英文を読むトレーニングは効果的ではあるが、andの前後を括弧でくくることによる理解度促進の効果は薄いと考えるのが妥当ではないかと思われる。

6.2 英文読解速度に関する考察

リサーチクエスチョン②については、実験群と統制群の読解速度の比較による有意差は認められなかった。これはいくつかの先行研究の結果と異なっているが、この結果の理由は少なくとも2つの可能性が原因として考えられる。1つ目は英語初級学習者にとって、チャンキングと読解速度には直接的な関係はないということであり、2つ目はテストを受けた状況がこれまでの研究とは異なっていたと

いうことである。すなわち今回の研究では、被験者全員が中学3年生の高校入試を控えた時期ということもあり、設問に正しく答えるために慎重になり、付属問題に解答するのに時間を要したということも理由として考えられる。

6.3 理解度と読解速度の相関に関する考察

リサーチクエスチョン③の理解度と読解速度の相関については、統制群に比べ実験群のwpmの値の伸びが認められている。その要因としては実験群の理解度の上昇が考えられるが、両クラスがともに伸びているのは「テスト形式への慣れ」という要素も関係しているのではないかと思われる。

7 結論

本研究の目的は、英語初級学習者にチャンキング指導を行うことの有効性を、理解度と読解速度の観点から検証することにあった。前章で報告した実験結果より、今後の教育的示唆として次の点が挙げられる。すなわち、統制群のクラスに対して実験群のクラスが有意に理解度を増したという結果から、チャンキングによる英文読解トレーニングが日本人英語初級学習者の読解能力を向上させることに効果がある可能性を示している。したがって、今後中学校、高等学校の英語教育の現場においてリーディング指導を行うときは、チャンキング教授を行うことによって、生徒の英文理解度を増すことが十分可能だと言える。

また本研究の意義として次の点が挙げられる。それは第2言語学習者の英文読解に関して、教室で応用できるチャンキング法を採用した点である。すなわち、今回実験で採用したチャンキング法は、あらゆる習熟度レベルの学習者でも実施できるという点で応用性・普遍性が高いと言える。

8 今後の課題

今後の課題として以下の点が挙げられる。1つ目は、今回のようにあらかじめ英語初級学習者に対して統一したチャンキング法を指導してからリーディングに関するデータをとった研究は少なく、結論を一般化するにはさらなる研究が必要である。

また、実験群39名の全員が、Post-testにおいてチャンキングを用いて英文を読んだかどうかは未知数である。実際、「文中にスラッシュか括弧を入れながら英文を読むように」という指導の下、全員の被験者が何らかの形でスラッシュか括弧をテスト問題に書き残してはいるが、実験群の理解度、及び読解速度の伸びがチャンキングだけの要因によるのかということはさらなる検討が必要とされる。

3つ目は、データ収集やそれに伴う実践授業の期間に関して、非常に短い時間だったという点である。今後半年、あるいは1年にわたる長期的なデータ収集を行う必要があり、またデータを収集する時期も、実践授業の直後、1か月後、半年後というようにdelayed testを実施することも考慮に入れるべきである。

最後に、方略訓練の短さが挙げられる。本来、チャンキングをマスターするのに必要な授業時間は数十時間であるのに対し、本研究では時期的な問題もあって、2、3時間しか取れなかった。チャンキングをマスターさせるための訓練として英文和訳の練習（資料2参照）を限られた授業時間で行ったが、まだその練習数は少なかったと言える。今後、さらに徹底した訓練の後にデータをとる機会があれば、より正確な数値が検出できるものと思われる。

謝辞

本研究をこのような形で発表する機会を与えてくださった（財）日本英語検定協会と選考委員の皆様にご心より感謝いたします。特に助言者の和田稔先生、さらに、研究過程において的確なアドバイスを下さった関西大学の竹内理先生、兵庫教育大学の山岡俊比古先生に厚く御礼申し上げます。

注

- (1) 中学生の生徒が英文を誤って訳してしまうのは、英文を適切な個所で区切れていないためであり、正しいチャンキング単位で処理できれば、英文理解度、及び読解速度が伸びるはずだという仮説に基づいている。
- (2) 本研究における「英文理解」の定義としては、「英文

(単文、長文)を読んで、その内容を問う質問(英文和訳、長文の内容に関する問題など)に正しく答える力」とする。その背景には「入学試験や定期考査といった英語試験において実際に点の取れる力をつけさせたい(つけたい)」という保護者・学習者・現場教師の意見がある。

参考文献(*は引用文献)

- * Ellis, N.C. (2001). Memory for Language. In P. Robinson (Ed.), *Cognition and second language instruction*. 33-68. Cambridge: Cambridge University Press.
- * Fleisher, L.S. et al. (1978). Effects on poor readers' comprehension of training in rapid decoding. Technical report No. 103. ERIC Document Reproduction Service. No. ED 159664.
- * Grellet, F. (1981). *Developing Reading Skills*. Cambridge: Cambridge University Press.
- * 土方裕子. (2003). 「日本人英語学習者の読み方とチャンキング単位の関係—速読と精読における効果的なチャンクの比較—」. *STEP BULLETIN*, vol.16, 73-86.
- * 土方裕子. (2005). 「代名詞が読解中のチャンキングに与える影響」. 全国英語教育学会. 学会発表. 札幌.
- * 岩城禮三. (1980). 「精読と速読」. 『英語教育』. 9. 21-23.
- * 門田修平. (2003). 『英語のメンタルレキシコン語彙の獲得・処理・学習』. (250-252). 東京: 松柏社.
- * 小池生夫他(編). (2003). 『応用言語学事典』. 東京: 研究社.
- * 駒場利男他. (1992). 「パソコンによるコミュニケーションのためのリーディング指導—フレーズ読みと速度のスキルを中心として」. *STEP BULLETIN*, vol.4, 88-105.
- * 松村幹男(編). (1984). 『英語のリーディング』. 東京: 大修館書店.
- Matsuo, H. (2000). An Analysis of Japanese High School English Textbooks and University Entrance Examinations: A Comparison of Vocabulary. *ARELE*, 11, 141-150.
- * Miller, G. (1967). *The psychology of communication: seven essays*. Penguin Books.
- * Nation, I.S.P. (2001). *Learning vocabulary in another language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- * Newell, A. (1990). *United Theories of Cognition*. MA: Harvard University Press.
- * Nuttall, C. (1996). *Teaching Reading Skills in a Foreign Language*. New ed. Heinemann.
- * Ohtagaki, M. & Ohmori, T. (1991). The advantage of 'progressive' reading activities using sense group for Japanese English learners. *ARELE*, 2, 83-92.
- Oxford, L.O., 池田真生子, 竹内理, 西川邦子. (2002). 『タペストリー・リーディング—方略で学ぶ新型リーディングへのアプローチ』. 東京: 松柏社.
- * 酒井得郎. (2001). 「WPMを活用した読解指導とその分析」. *STEP BULLETIN*, vol.14, 175-182.
- * 佐藤知代. (2006). 「速読練習を取り入れた『多読』授業の効果」. *STEP BULLETIN*, vol.18, 92-109.
- * Smith, F. (1982). *Understanding Reading*. 3rd ed. Austin. Holt, Rinehart and Winston.
- * 高梨庸雄・卯城祐司(編). (2000). 『英語リーディング事典』. 東京: 研究社.
- * 高山英士. (2005). 『ALL IN ONE—The Ultimate English Guide』. 所沢: Linkage Club.
- * 竹内理. (2003). 『より良い外国語学習法を求めて』. 東京: 松柏社.
- * Tan, A. & Nicholson, T. (1997). Flashcards revisited: Training poor readers to read words faster improves their comprehension of text. *Journal of Educational Psychology*, 89, 276-288.
- * 田中省作・木村恵・北尾謙治. (2006). 「言語処理技術を活用した柔軟性の高いスラッシュ・リーディング用教材作成支援システム」. 外国語教育メディア学会全国研究大会. 発表要項集.
- 天満美智子. (1989). 『英文読解のストラテジー』. 東京: 大修館書店.
- Ushiro, Y. (2002). Working Memory as a Crucial Component of Japanese EFL Reading. *IRICE PLAZA*, 12, 68-79.
- * 山内豊. (1985). 「中学校における速読指導の試み」. 『関東甲信越英語教育学会研究紀要』, 1, 11-25.
- * 柳瀬学. (2001). 「中学生は英文読解のどこでつまづいているのか: スラッシュリーディングの正しい指導法」. 『これからの英語教育に向けて』. (pp. 69-73). 宝塚: 非売品.
- * 柳瀬学. (2005). 『英文を読むスピードを3倍にする10の法則』. 東京: 明日香出版.

英文読解練習問題 第一回目

No. _____

1. 次の英文の内容として最も適当な日本語訳を 1 つ選んで○をつけなさい。

- ① In this winter the girl was born. ※ be born 生まれる
 ア. この中にいるのは、冬に生まれた女の子です。 イ. この冬に、その女の子は生まれた。
 ウ. この冬の女の子は、無事に生まれた。 エ. この中には、冬に生まれた女の子がいる。
- ② At that park I read a book.
 ア. あの公園で、私は本を読んだ。 イ. あれは、私が公園で読んだ本だ。
 ウ. あれは、私が本を読んだ公園だ。 エ. あの公園は、私が本を読んだところだ。
- ③ The fruit is grown in his farms and eaten by many people.
 ※ be grown 栽培される farms 農場
 ア. そのフルーツは、彼の農場で多くの人々によって栽培され、食べられる。
 イ. そのフルーツは、彼の農場や、多くの人々によって食べられる場所で栽培される。
 ウ. そのフルーツは、彼の農場で栽培され、多くの人々によって食べられる。
 エ. そのフルーツは、彼の農場と、多くの人々が食べている地域で栽培される。

2. 次の英文を日本語に訳しなさい。

- ① A few days later I was very surprised. (2006年度 兵庫県公立高校入試問題より 抜粋)
 ヒント：was surprised 驚いた
 日本語訳 ()
- ② Many people fought for human rights and got civil rights.
 ヒント：fought for ーのために戦った human rights 人権 got ーを獲得した civil rights 市民権
 日本語訳 ()
- ③ Every Friday night she takes English lessons and studies at home, too. (2006年度 英検 4 級一次試験問題より 一部改題)
 ヒント：every 毎週 take ーを受ける English lesson 英語のレッスン at home 家で
 日本語訳 ()

3. 次の英文を読んで、以下の問いに記号で答えなさい。

Takuya: These days a lot of Japanese go to skating rinks and cheer their favorite figure skaters.
 Megumi: Yeah. Several years ago figure-skate was not so popular in Japan. But, in 2006, the Winter Olympics were held and Arakawa Shizuka got a gold medal. Did you watch her skating performance?
 Takuya: Of course! My sister and I watched it on TV and cheered for ① her.
 ※ these days 最近 skating rinks スケートリンク cheer ーを応援する favorite 好きな figure skater フィギュアスケートの選手 several years ago 数年前 were held 開催された got a gold medal 金メダルを獲得した skating performance スケート演技 cheer for ーを応援する

- (1) Where do many Japanese go to cheer their favorite figure skaters?
 ア. They go to skating rinks. イ. They go to the Winter Olympics.
 ウ. They go to a TV station. エ. They go to Arakawa Shizuka's house.
- (2) Is figure-skate popular in Japan these days?
 ア. Yes, it is popular. イ. No, it is not so popular.
 ウ. Yes, it was popular several years ago. エ. No, it was not so popular now.

- (3) 下線部①は誰を指していますか。適する人物を一人選びなさい。
 ア. Takuya's sister. イ. Megumi.
 ウ. Arakawa Shizuka. エ. A Japanese.
- (4) 上の本文の内容に合致していない日本語を次の中から1つ記号で選びなさい。
 ア. 最近、多くの日本人がスケート場に行って、好きなフィギュアスケート選手を応援するようになった。
 イ. 何年前、フィギュアスケートは日本ではそれ程人気のあるものではなかった。
 ウ. 荒川静香が金メダルを獲得したのは2006年の冬季オリンピックである。
 エ. タクヤは2006年の冬季オリンピックを見たが、フィギアスケートを見たのはタクヤの姉だけだった。

資料2：実験群の授業で使用したプリント

英文を速く・正確に訳するための3つの秘密①

その1. 場所を表す語句の後にスラッシュマーク / を入れる

「場所を表す語句」の後に「主語＋動詞＋α」が続く英文を読む(訳す)時は、「場所を表す語句(On-, In-, At-等)」と「主語＋動詞＋α」の間に / (“スラッシュマーク”といいます)を入れると、英文が読みやすくなります。

注) 場所を表す語句とは？

→ 例を挙げると，“On the ground グランドで”，“In Japan 日本では”等のこと。

例：In front of the house we saw Mike. → In front of the house / we saw Mike.

(その家の前で、私たちはマイクを見かけた。)

練習問題

次の英文を「場所を表す語句」と「主語＋動詞＋α」の間に / を入れて訳しましょう。

1. In Japan a lot of trains run from morning till midnight.

ヒント：a lot of たくさんの train 電車 from - to ... -から…まで midnight 深夜

日本語訳 _____

2. From California a lot of oranges are imported into Japan.

ヒント：California カリフォルニア州 be imported into - -へ輸入される

日本語訳 _____

英文を速く・正確に訳するための3つの秘密②

その2. 時を表す語句の後にスラッシュマーク / を入れる

「時を表す語句」の後に「主語＋動詞＋α」が続く英文を読む(訳す)時は、「時を表す語句(After-, Before-, In-等)」と「主語＋動詞＋α」の間に / (“スラッシュマーク”といいます)を入れると、英文が読みやすくなります。

注) 時を表す語句とは？

→ 例を挙げると，“In 2001” 2001年に，“On July 4” 7月4日に，

“On his birthday” 彼の誕生日に，“At that time” その当時…等

例：At that time the song was very popular. → At that time / the song was very popular.

(その当時、その歌はとても人気があった。)

練習問題

次の英文を「時を表す語句」と「主語＋動詞＋α」の間に / を入れながら訳しましょう。

1. In 2001 the terrorist attacks happened.

ヒント：the terrorist attacks 同時多発テロ happen 起こる

日本語訳 _____

2. At that time I met one of my classmates.

(2006年度 兵庫県公立高校入試問題より 抜粋)

ヒント：At that time その時 met ーに出会った one of ーの一人 classmates クラスメート

日本語訳 _____

英文を速く・正確に訳するための3つの秘密③

その3. and の前後を () でくくる

次の英文の and の前後を () でくくってみましょう。

中学一年生レベル： I like apples and oranges.

→ I like (apples) and (oranges).

中学二年生レベル： My hobby is listening to music and playing tennis.

→ My hobby is (listening to music) and (playing tennis).

私の趣味は音楽を聴くこととテニスをすることです。

中学三年生レベル： I listened to his music and bought the CD instantly.

※ bought = buy の過去形 instantly 即座に

→ _____

日本語訳 ()

英文を訳す時、「and の前後は () を書き入れて読むとわかりやすくなる」という秘訣は昔から言われてきたことです。

しかし、どうやって and の前後を () すればよいのか、どの具体的な方法はあまり教えられていません。

「and の前後を正しく () する手順」は以下のようになります。

手順 1. and の直後から最後までを () する。

手順 2. and の直後の単語の品詞に注目する。その単語は、動詞・名詞・形容詞・前置詞…のうちのどれなのか、また、もし動詞であれば、それは原型・過去形・-ing形・be動詞…のうちのいずれなのかをチェックする。

手順 3. 手順 2 で確認した品詞と同じ品詞の単語を and の前にさがす。(同じ品詞が 2 つ以上ある場合は and に近い語を優先する。)

手順 4. その単語を見つけたら、その語から and の前までを () する。

<これで () and () の出来上がり！>

練習問題 1

手順 1 ~ 4 を使って、上記英文(中学三年生レベル)に () を書き入れて、「() and ()」の形にし、日本語訳も書きましょう。

練習問題 2

次の英文の and の前後を () でくくって、「() and ()」の形にして訳しましょう。

1. Electronic Dictionary is not so expensive and is used by many students.

※ electronic dictionary 電子辞書 not so expensive それ程(値段が)高くない is used 使われている

日本語訳 _____

2. She tells me a lot of stories and teaches me a lot of things. (2006年度 兵庫県公立高校入試問題より 抜粋)
 ※ tell A B A (人) に B (出来事) を話す teach A B A (人) に B (出来事) を教える
 日本語訳 _____
3. We are looking forward to seeing you next week and singing together.
 ※ looking forward to ーするのを楽しみにしている see 会う together 一緒に
 日本語訳 _____

資料 3 : Post-test

英文読解練習問題 第二回目

No. _____

1. 次の英文の内容として最も適する日本語訳を 1 つ選んで○をつけなさい。
- ① After dinner your family enjoyed the evening. (2006年度 兵庫県公立高校入試問題より 抜粋)
 ア. 夕食後は、あなたの家族が夜を楽しんだ時間だった。
 イ. その後の夕食は、あなたの家族が夜を楽しんだ時間だった。
 ウ. あなたの家族の夕食の後は、夜を楽しんだ。
 エ. 夕食後、あなたの家族は夜を楽しんでいた。
- ② In Japan the movie is watched by many people.
 ア. 日本の中には、その映画を見た人もいる。
 イ. 日本の中には、国によってその映画を見るよう指導している人々がいる。
 ウ. 日本では、その映画は多くの人々によって見られている。
 エ. 日本の映画は、多くの人々によって見られている。
- ③ Many girls stopped playing tennis and went back home.
 ア. 多くの女の子は、テニスを終えて家に帰った。
 イ. 多くの女の子は、立ち止まってテニスをした後、家に帰った。
 ウ. 多くの女の子は、テニスをすることと家に帰ることを止めた。
 エ. 多くの女の子は、テニスをすることと戻ることを止めて家にいる。
2. 次の英文を日本語に訳しなさい。
- ① Last Thursday a big party was held in New York.
 ヒント：last Thursday 先週の木曜日 party パーティ was held 開催された
 日本語訳 (_____)
- ② Many Koreans put their bowl on the table and eat with a spoon.
 ヒント：Korean 韓国人 put 置く bowl 皿 with ーを使って spoon スプーン
 日本語訳 (_____)
- ③ Today she showed us many nice shops and restaurants in this town. (2007年度 英検 4 級一次試験問題より 一部改題)
 ヒント：show ーを見せてくれる nice shop 素敵な店 restaurant レストラン
 日本語訳 (_____)

3. 次の英文を読んで、以下の問いに記号で答えなさい。

Mike: Last week I read a book about Chinese food and Chinese people.

Tom: Was it interesting?

Mike: Yes. In the book there were a lot of interesting topics for me. The history of the Chinese food was especially interesting.

Tom: Actually, this morning I met an Asian woman in Kobe. She had lost her way and ① wanted to ask the way. So I approached her and ② tried to show her the way.

※ last week 先週 Chinese food 中華料理 Chinese people 中国の人々 interesting 面白い topic トピック, 話題
history 歴史 especially 特に actually 実は met ーに会った Asian woman アジア人の女性 way 道 lost one's way
道に迷った approach ーに近づく show ーに～を教える

(1) What was a especially interesting topic for Mike?

ア. The history of the Chinese food.

イ. The history of the Chinese people.

ウ. The history of the Asian woman.

エ. The history of Kobe.

(2) 下線部①の行動をとったのは誰ですか。適する人物を一人記号で選びなさい。

ア. Mike

イ. Tom

ウ. Chinese people

エ. An Asian woman

(3) 下線部②のような行動をとった理由として最も適当なものを一つ記号で選びなさい。

ア. Because Tom was interested in the history of the Chinese food.

イ. Because an Asian woman had lost her way and wanted to ask the way.

ウ. Because Tom met an Asian woman in Kobe yesterday.

エ. Because Tom read a book about Chinese people this morning.

(4) 上の本文の内容に合致していない日本語を次の中から 1 つ記号で選びなさい。

ア. Mike が先週読んだ中国の食べ物と人々に関する本は面白かった。

イ. Tom は先週、神戸でアジア人の女性に出会った。

ウ. アジア人の女性は、神戸で道に迷ってしまった。

エ. アジア人の女性を見かけたTomは、彼女を助けようとした。